

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○12月16日～

先週は円安が進み、ドル／円は153円台まで戻しています。

円高にポジションが偏っていたところに日銀が利上げを見送るのではという報道があったことで、ポジションの巻き戻しもあり、円安が進んだようです。

また、米国の長期金利が上昇していることもドル高要因となっています。

ただし、これは米国株にとっては下落要因となるためNYダウなどが先週は軟調な動きとなりました。昨年秋から強い動きが続いていた米国株のトレンドに変化が出てくるかも重要です。

今週は日米ともに金融政策を決める会合があるため大きな動きが出るかもしれません。

米国はFOMCで0.25%利下げという予想が多く、日本は日銀金融政策決定会合で利上げを見送るのではという見方が強まっています。

もし、日本が利上げとなった場合は、日本株、ドル／円ともに下落するリスクがあるためポジションをほどほどにしておいた方がよさそうです。

来年については、米国はこれ以上の利下げには慎重になり、しばらくは金利を据え置く可能性もあります。

そして、日本も今週利上げがなければ来年の早い段階で利上げを行うという予想が多いですが、その後の利上げはかなり先になるという予想も多く、日米の金利差がそれほど変動しないなら、ドル／円は比較的安定した動きになる可能性もあります。

また、地政学リスクが悪化しているため突発的なニュースにも注意がいります。

中東、朝鮮半島、ウクライナ関連のニュースも見ておく必要があります。

そして、政治の混乱も続いています。

フランスは新首相にバイル氏が決まり、新内閣が発足しましたが不安も多く残っています。

韓国はついに大統領の弾劾案が可決され、大統領が職務停止となりました。

また、中国は米国の関税に対抗するために人民元安を容認するという報道もあり、景気を支えるための財政出動や金融緩和などの動きが活発になるかも注目しておきたいです。

テクニカルで見ると株も仮想通貨も一度は調整が入ってもおかしくない水準に来ているため12月後半にかけて相場が大きく崩れていくシナリオも想定しておきたいです。

為替相場は今のところ大きな混乱にはなっていませんが、日銀金融政策決定会合の結果次第では動きが出るかもしれないので、ドル／円もクロス円もリスク管理はしっかりしておきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

先週のドル／円は週の初めから一貫して上昇しました。日足で見ても陽線が毎日続いています。

153.8円を超えると155円あたりが上値のメドとなりそうです。

ここも超えてくると11月中旬の高値156.8円を目指す動きが期待できそうです。

下値は152.8円あたりのサポートを割り込むと151円あたりまで下がるリスクがでてきます。

<気になるクロス円>

クロス円の多くも12月に入ってからドル／円と同じように上昇が続いているペアが多く、この上昇が続くかどうかポイントになりそうです。

NZドルは87－89円のレンジを動いていますが、89円の抵抗を超えてくれば再度90円台に戻してくる可能性があります。

ただし、クロス円は株価が大きく下がると連動して下げることが多いため、株価動向にも注意がいります。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では10月機械受注、11月貿易統計、日銀金融政策決定会合、植田・日銀総裁定例会見、11月全国消費者物価指数などがあります。

米国では12月ニューヨーク連銀製造業景気指数、12月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)、11月小売売上高、11月鉱工業生産、12月NAHB住宅市場指数、7－9月期四半期経常収支、11月住宅着工件数、FOMC政策金利、パウエル・FRB議長定例会見、7－9月期GDP(確定値)、12月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、前週分新規失業保険申請件数、11月中古住宅販売件数、10月対米証券投資、11月個人消費支出(PCEデフレーター)、12月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで12月製造業・サービス業PMI(速報値)、12月ZEW景況感調査、ドイツで12月IFO企業景況感指数、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言、11月消費者物価指数などがあります。

ほかには、カナダと英国で11月消費者物価指数、ニュージーランドで7－9月期GDP、英国で政策金利、英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨の発表などがあります。